かわさき 図書館だより

第 11 号
平成18年10月1日発行

図書館ホームページ：http://www.library.city.kawasaki.jp/

期限内の返却にご協力ください

ご自宅に返却日を過ぎた図書館の本はありませんか？

現在、川崎市立図書館では、返却日を過ぎても返却されない資料が多く、対応に苦慮しております。2006年9月の調査では、返却日を一週間過ぎている資料が貸出冊数の約15%、二週間を過ぎても返却されない資料が約9%もありました。

返却を促すご連絡にも、大切な税金が…

図書館では、返却をお忘れの方に、返却を促すメールやハガキをお送りしています。特にメールアドレスを登録されていない方・メールの送信後も返却されていない方には督促のハガキを送付していますが、このハガキの枚数は、全館で一年間に約3万7千枚（2005年度）、費用で約187万円になっています。

図書館の資料はみんなの財産。読みたい人が待っています！

昨年度は予約の件数が約103万件にのぼりました。借りられている資料にも次の順番を待っている方がいるケースが多いです。資料の貸出期間は15日間です。期限までの返却をお願いいたします。

「読書のまち・かわさき」にシンボルマークができました！

読書のまち・かわさき

川崎市の読書推進活動「読書のまち・かわさき」に、ついにシンボルマークができました。川崎市立総合科学高校の卒業生がデザインしたもので、川崎市のマークと子どもが本を読む姿が組み合わされています。

今後、図書館のイベントや広報物などにもこのシンボルマークが登場いたします！

11月5日㈰は、かわさき読書の日

10月30日（月）～11月12日（日）は「かわさき読書週間」です！

We Love! KAWASAKI

このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介していきます。
第3回目は、川崎のシンボルでもあり、身近な憩いの場所でもある多摩川に関する本を集めました。

第3回　多摩川は川崎のたからもの

『水辺を歩こう多摩川　ガイドブック2004』
（国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所）

多摩川流域を16のエリアに分けて詳しく紹介しています。散策マップ・写真とともに、景観から史跡まで多摩川の見どころが満載です。

姉妹編『水辺を歩こう多摩川　ハンドブック2004』
ガイドブックを読んで多摩川の事をもっと知りたくなったら？多摩川に関する様々なデータがわかりやすく掲載されたハンドブックをどうぞ！調べ学習にもお役立ちです。

『多摩川絵図　今昔－源流から河口まで』
（けやき出版）

江戸時代に描かれた『調布玉川惣画図』は、多摩川の源流から河口までをたどる長い巻物の絵図。復刻された絵図を解説とともに鑑賞できるのがこの本です。

当時の村々の様子を見つつ、地名の由来などを知ることができます。

『ガサガサ探検隊。』
（つり人社）

「ガサガサ」とは？水辺のガサガサしている場所をタモ網でガサガサすくうこと。俳優の中本賢さんとこどもたちのガサガサ探検隊。ホームグラウンドは多摩川です。

川遊びの本ですが、大人も楽しめます。多摩川にこんなに生き物がいるの？と、驚かされます。

かわさき読書の日のつどい

11月3日（金）文化の日　中原市民館にて

今年も「かわさき読書週間」のイベントとして、「かわさき読書の日のつどい」が開催されます！今年は『冒険者たち　ガンバと十五ひきの仲間』などの作者・斎藤惇夫氏をお招きし、ご自身の創作と子どもの本に関するお話をうかがいます。入場は自由ですので、ぜひご参加ください！当日は講演会の他にも、展示や表彰などの催しもあります。

かわさき読書の日のつどい

日　時：平成18年11月3日（金）
　　午後1時30分～4時
会　場：中原市民館　大ホール
内　容：『冒険者たち　ガンバと15ひきの仲間』
　　などの作者・斎藤惇夫氏による講演
入　場：参加自由
問合せ：川崎市教育委員会生涯学習推進課
　　（電話　044－200－3249）

このコーナーでは、川崎で広く読書活動や、研究などにたずさわる方々の活躍を紹介しています。

Clouse Up クローズアップ

語りつがれてきた昔話を次の世代に伝えたい

昔話の貴重な語り手・寺内重夫さんをクローズアップ

8月の暑い日、宮前図書館にて寺内重夫さんの昔話の語りが行われていました。寺内さんは20年以上図書館のおはなし会で昔話の語りをされていて、他にも宮前区内の保育園などで活動をされています。この日の一つ目のお話は「バナナ」というフィリピンに伝わる悲しいお話でした。寺内さんは「とても悲しいお話ですが、こんなお話をひとつくらい知っているのもいいですよ」といって語り始めました。就学前の小さな子どもたちも真剣な顔でお話に聞き入っています。次に「氷」という中国のコミカルなお話を語ると、一緒に聞いていた保護者の方たちからも笑いがこぼれました。

（宮前図書館のおはなし会にて）
寺内さんの昔話の語りは毎月第3土曜日の11時～ 11時30分の会でおこなわれています。

寺内さんが昔話の世界に目覚めたのは昭和18年頃のこと。戦争中の東京で柳田国男氏の著作に出会い、長い年月日本に語り継がれてきた昔話が、この先消えていってしまうのでは、と感じたからでした。終戦後は教職につきながら昔話の研究をつづけ、昭和52年頃本格的に語りの活動をスタート。その頃からつけ始めた活動の日誌では、この日図書館の語りが第1334回目（！）とありました。

長く活動を続けてきた寺内さんですが、かつて「語りをやめる」と宣言したことがあったそうです。きっかけは、地方で資料などを何も持たずに、子どもの頃聞いた話を語り継いでいる方々の「語り」を聞いたことで、自分の語りが「本物ではない」と思えてしまったことでした。しかしその後また活動をつづけたのには、昔話を愛する気持ちと、それを伝えていきたいという思いがあったからでした。寺内さんの語りは、資料で読んだストーリーを自分の中に取り込み、テキストどおりではなく自分のものにして「語る」というスタイルをとっています。81歳になられた今年は「半寿の語り九十九話」と題して、99の昔話を語るイベントを考えられています。

「バナナ」（ルミンの手）

貧しく病気の母と暮らす少女・ルミンは、市場から食べものを盗んできて生活をしていました。ある日ルミンは市場の人に見つかり、両手を切られてしまいました。ルミンは切られた両手を土に埋めると、どこかへ行ってしまいました。やがてルミンが手を埋めた場所から一本の木が生えて、手の形をした実がなりました。これがバナナです。

『フィリピンの民話　山形のおかあさん・須藤オリーブさんの語り』（星の環会）収録

「氷」（氷を初めて食べた男）

冷蔵庫などなかった昔の話。氷をはじめて食べた男は「こんな冷たくておいしいものはない」と感動して、家族に食べさせようと紙に包んで懐に入れて帰りました。帰り着いて家族の前で懐のものを開けてみると、氷は消えていて紙はびっしょりでした。そこで男は言いました「アイツ（氷）、小便して逃げちまった！」

『笑府　上』（岩波文庫）収録

かわさき歴史めぐり (10)

徳川氏の関東入国と川崎市域－10－

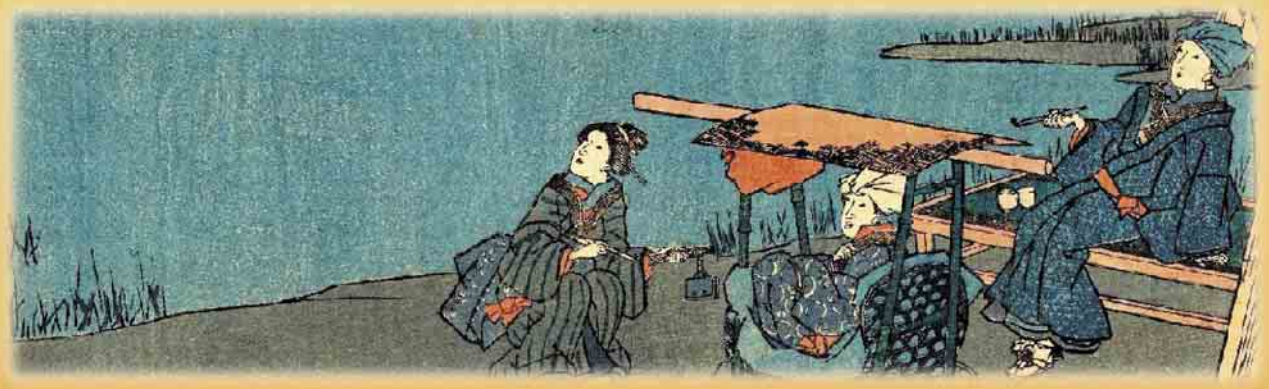
法政大学名誉教授
村　上　　直

戦国時代の川崎市域には、どのような郷村、つまり集落が分布していたのでしょうか。勿論、鎌倉街道に沿って郷村があったことは確かですが、さらに郷村名を知るには、永禄2年（1559）2月に作成されたといわれる『小田原衆所領役帳』があります。この役帳は、小田原城主北条氏康が太田豊後守らに命じて、主として家臣らに対する普請役の賦課の状況を調査させたものです。そこには家臣の所領について、その貫高と郷村名が列記されています。この役帳に記載されている郷村の貫高は、一応、知行貫高とみてよいでしょう。また、市域の郷村数を、役帳によって調べますと、36以上を数えることができます。次に溝口・登戸・丸子を含め、その地名を記してみることにしましょう。

野川、溝之口、片平、加世（瀬）、麻生、大師河原、岡上、有馬、小田、上丸子、末長、久本、今井、平間、宇名根、早野、登戸、木月、小倉、渋口、長尾、宿河原、鹿島田、小田中、川崎、平、新作、小沢、黒川、宮内、万福寺、菅生、戸手、矢上、井田、作延、そしてその他では、坂戸、諏訪、上小田中、丸子などの郷村を挙げることができます。

これらの地域では多摩川（玉川）の流域が常に移動していましたが、16世紀の終わり頃（天正10年代）なって、現在に近い流れに変ったとみられています。（『川崎市史』通史編1）。この地域の他に、天正18年（1590）4月に豊臣秀吉が小田原城攻略の際に市域の村郷に与えた「禁制」によっても集落の分布を知ることができます。先ず武蔵国都筑郡の内で麻生郷においては、王禅寺村・古沢村・片平郷・万福寺村（以上、川崎市域）、黒金郷・石川郷・荏田郷・大棚郷（以上、横浜市域）、三輪郷（町田市域）の九ヵ所が対象になっています。この他「禁制」は、小田村、川崎領六ヵ村、稲毛領作延郷、長尾村、平土橋村を対象としたものもあり、市域の郷村の分布の状態を知ることができます。（村上直『江戸近郊農村と地方巧者』）。

また、中世の東国では熊野信仰が流行していましたが、御師や先達は各地の地方武士を檀那として関係をもっていました。那智熊野神社の麓にある米良家の古文書のなかに、年不詳ですが「いなぎ十六郷の中小杉より下は一円」とあり、“小杉”の地名があります。これによって稲毛十六郷の中に小杉が存在し、他の郷村とも歴史の道によって結ばれていたことが分かります。



編集・発行　川崎市立中原図書館　〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417　TEL044-722-4932
川崎市立図書館：
川崎図書館(200-7011)　高津図書館(822-2413)　麻生図書館(951-1305)　大師分館(266-3550)　橘　分館(788-1531)
幸　図書館(541-3915)　宮前図書館(888-3918)　田島分館(333-9120)　柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932)　多摩図書館(935-3400)　日吉分館(587-1491)　菅閲覧所(946-3271)